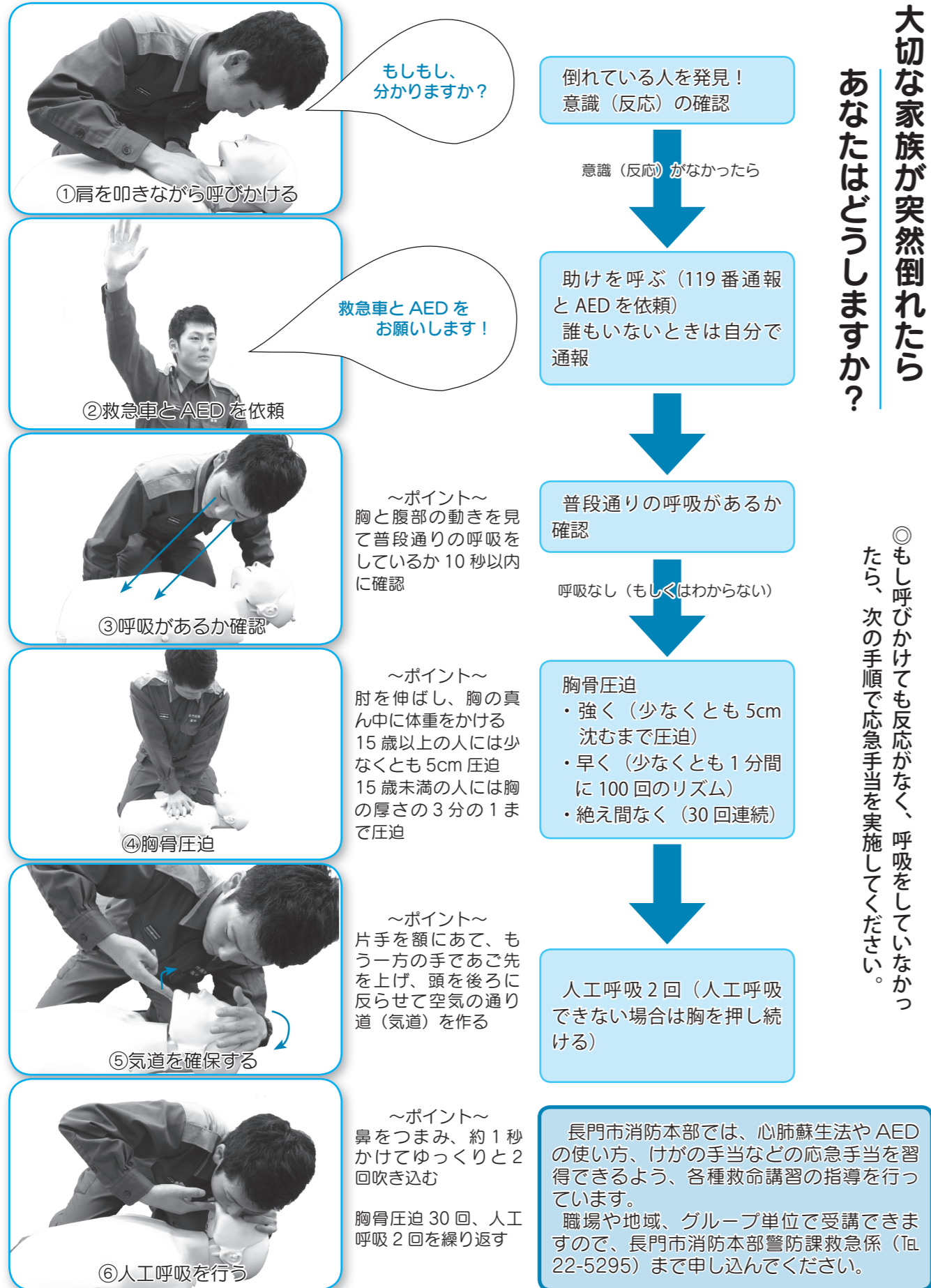


救命処置の流れ (心肺蘇生の手順)



大切な家族が突然倒れたら
あなたは どうしますか?

◎もし呼びかけても反応がなく、呼吸をしていなかったら、次の手順で応急手当を実施してください。



あなたの大切な命を守りましょう!
救急車の適正利用にご協力を!!

救急車の出動件数、前年より微減
長門市管内における平成24年中の救急出動件数は1,815件、搬送人員は1,760人と、過去最高だった前年に比べ、出動件数は42件、搬送人員は18人の減となりました。これは、管内人口の約22人に1人を救急搬送したことになります。

依然高い、高齢者搬送率
救急出動件数を事故種別ごとに見ると、急病によるものが1,190件と全体の約7割を占め、次いで一般負傷が291件、転院搬送が149件、交通事故が118件となっています。いずれの出動件数も、前年を下回りました。

適切な救急車の利用を
総搬送人員のうち、65歳以上の高齢者は1,226人で、全体の約7割を占め、依然高い状態が続いています。これは、管内全高齢者の約11人に1人を救急搬送したことになります。

救急車を交通機関代わりに使ったり、緊急性のない軽い症状やケガで呼んでいませんか? 限られた台数の救急車です。適切な利用をお願いします。

もしかして、熱中症?

今年も残暑が厳しい予報です。皆さん、油断禁物ですよ!

重症度	症状	対処法
重症度 ↓	めまい・立ちくらみ・こむら返り・大量の汗	涼しい場所へ移動・安静・水分補給
	頭痛・吐き気・体がだるい・体に力が入らない・集中力や判断力の低下	涼しい場所へ移動・体を冷やす・安静・十分な水分と塩分の補給
	意識障害(呼びかけに対して反応がおかしい・会話がおかしいなど)・けいれん・運動障害(普段どおりに歩けないなど)	涼しい場所へ移動・安静・体が熱ければ保冷剤などで冷やす

こんな時は、ためらわずに救急車を呼びましょう

- 自分で水が飲めなかったり、脱力感や倦怠感が強く、動けない場合
- 意識がない(おかしい)、全身のけいれんがあるなどの症状の場合

熱中症予防のポイント

- 部屋の温度をこまめにチェック!
- 室温が28度を越えないように、エアコンや扇風機を上手に使いましょう!
- のどが渴いたと感じたら必ず水分補給!
- のどが渴かなくてもこまめに水分補給!
- 外出の際は体をしめつけない涼しい服装で、日焼け対策も!
- 無理をせず、適度に休憩を!
- 日ごろから栄養バランスの良い食事と体力づくりを!

9月9日は『救急の日』

救急医療週間

9月8日(日)～14日(土)